

〔水稲〕

1. 作付の概況

九州における平成 22 年度の水稲作付面積（青刈り面積控除後）は 19 万 ha で、前年並みであった。九州における品種別作付面積割合は、「ヒノヒカリ」で 51%と、前年より約 1% 減少した（品種別作付面積割合は、平成 22 年産から農林水産省によるデータ収集が中止となったため、各県のデータから推計）。なお、「ヒノヒカリ」の作付面積は、5 年前の 61% から徐々に減少している。次いで作付けの多い「コシヒカリ」では約 13%と、前年よりやや減少したが、両品種で 64%を占めている。この他の特徴として、福岡県で「元気つくし」が 2.8%、佐賀県で「さがびより」が 15.7%、長崎県で「にこまる」が 11.8%、熊本県で「くまさんの力」が 3.1%、大分県で「にこまる」が 2.5%など、高温耐性品種の普及・拡大が進んでいる。

沖縄県における水稲作付面積は 914ha で、前年より約 30ha（3%）減少した。主力品種「ひとめぼれ」が 87%と前年より 4%増加し、「ちゅらひかり」が 7%であった。

2. 作柄の概況

九州沖縄における平成 22 年産水稲の収穫量は 84 万 7,800t で、前年と大差なかった。

しかし 22 年の収量は平年より決して高くはなく、九州地域の作況指数は 98、佐賀県と長崎県が 94、福岡県が 97 であった。早期栽培については、宮崎県で 100、鹿児島県で 98 であった。また、沖縄の作況指数は 95 であった。

3. 生育の概況

1) 普通期水稲

九州地域では 6 月下旬から 7 月上旬および 7 月下旬の日照が少なく、分けつの発生が抑制され、穂数もほとんどの県で少なくなった。7 月 17 日頃（九州北部）～20 日頃（九州南部）の梅雨明け以降は、高温多照条件となり生育は促進されたが、一穂粒数も多く、多くの県で平年並みか、むしろ少なくなった。これは、1 次枝梗や 2 次枝梗の分化時期にあたる 8 月上旬の平均気温が 30℃前後の極めて高い温度になったために、分化が抑制されたことが考えられる。これらのことから、単位面積当たり粒数は平年よりやや少ない県が多かった。出穂期は平年と大差ない地域が多かった。登熟期は、高温多照条件であり、台風の襲来もなかったため、平年並み～やや良となった。しかし、出穂期である 8 月下旬から 9 月上旬まで高温が続いたため、背白粒や基部未熟粒が多発して、1 等米比率は九州平均で 38.9%となった。特に「ヒノヒカリ」は 21.3%と、顕著な品質不良となった。

2) 早期水稲

4 月中下旬の低温により初期生育が抑制されたほか、6 月後半から 7 月上旬の日照不足により、単位面積当たり粒数がやや少なかった。しかし、登熟は、特に 7 月中旬（登熟中期）以降の高温多照条件により順調に進み、作況指数はほぼ平年並みとなった。1 等米比率は、登熟期の天候に恵まれた宮崎県で 65.3%、日照不足が著しかった鹿児島県で 37.4%となった。主な格付理由は、カメムシと充実不足であった。

なお、沖縄県の 1 期作では幼穂分化以降の重要な時期である 4 月から 5 月にかけてやや低温寡照で推移したが、生育量は確保され、作況指数は 101 となった。2 期作では生育期間を通して高温で、特に成熟期が早まり、作況指数は 80 であった。1 等米比率は、1 期作、2 期作合計で 45.5%と前年より高まった。

4. 被害の概況

作況に影響した被害に関して、九州沖縄地域の被害総量は 13 万 7,400t で、被害率は 14.7%であった。被害種類別に見ると、高温や日照不足などによる気象被害が 8.7%、病害が 3.5%、虫害が 2.0%であった。

玄米の品位格付理由別の比率は、九州の平均値で充実不足が 40.5%、心白・腹白が 30.5%、カメムシ類が 9.5%であり、いずれも出穂前後の高温が大きく影響したと考えられた。

（九州沖縄農業研究センター 森田 敏）

2010年(平成22年)産水稲の作付面積と収穫量

区 分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量	作況指数	前年との比較					
					作付面積		10a当たり収量		収穫量	
					対差	対比	対差	対比	対差	対比
	(ha)	(kg)	(t)		(ha)	(%)	(kg)	(%)	(t)	(%)
全 国	1,625,000	522	8,478,000	98	4,000	100	0	100	12,000	100
九州計	190,000	491	933,000	98	200	100	△ 15	97	△ 27,700	97
福 岡	39,400	486	191,500	97	0	100	△ 13	97	△ 5,100	97
佐 賀	27,800	493	137,100	94	900	103	△ 34	94	△ 4,700	97
長 崎	14,000	449	62,900	94	△ 100	99	△ 30	94	△ 4,600	93
熊 本	39,500	512	202,200	99	△ 200	99	△ 3	99	△ 2,300	99
大 分	24,400	495	120,800	98	△ 400	98	△ 7	99	△ 3,700	97
宮 崎	20,100	496	99,700	100	△ 100	100	△ 18	96	△ 4,100	96
鹿 児 島	24,800	479	118,800	100	100	100	△ 15	97	△ 3,200	97
沖 縄	914	293	2,680	95	△ 29	97	△ 13	96	△ 210	93

注) a)資料:「平成22年産水陸稲の収穫量 平成22年12月8日公表」農林水産省大臣官房統計部。

b)△は減少量を示す。